

技術士 第二次試験 模擬答案用紙

受験番号	
問題番号	
答案使用枚数	枚目 枚中

技術部門
選択科目：
専門とする事項：

(1)	調査、検討すべき事項とその内容 ①
1)	社内資源の調査
	グリーンプロジェクトの構想策定の足がかりとして、社内 でグリーンプロジェクトに活用できる技術および活用 できる人的資源を調査する。 ②
2)	事業対象の検討
	PEST分析とSWOT分析を用いて業界の立ち位置お よび自社の強み弱みを分析した上で、自社のグリーン プロジェクトの事業対象を検討 ③ する。
3)	費用対効果の検討
	グリーンプロジェクトを実行に移すために必要な投 資費用と、期待できる効果・利益を算出し、事業とし て成り立つか検討する。
4)	協力会社の調査
	グリーンプロジェクトの事業を実現するにあたり ④ 自社のリソースで不足する技術を補足できる協力会社 を調査する。

① 記述の内容は、どんなケースにも当てはめることができるものです。グリーンプロジェクトを焦点化していません。題意に関する専門性が欠如しており、一般論を脱していないように感じます。また、記載の調査のみで構想が策定できるとは考えにくいです。例えば、資金調達にグリーンボンドの活用検討などが考えられます。この場合、環境省のグリーンファイナンスポータルにある追加手続きをみると、下図の箇条書きにある「調達資金の充当対象プロジェクトの範囲を検討」、「グリーンプロジェクト評価・選定プロセスの検討」、「見込まれる環境改善効果の算定」あたりが良さそうだと思います。

技術士 第二次試験 模擬答案用紙

受験番号		技術部門
問題番号		選択科目：
答案使用枚数	枚目 枚中	専門とする事項：

	通常の発行手続き	グリーンボンド発行時の追加手続き
発行準備	<ul style="list-style-type: none"> 発行計画の検討 格付取得 証券会社の引受審査 ドキュメンテーション プレ・マーケティング 	<ul style="list-style-type: none"> ①グリーンボンド発行における手続きを検討 <ul style="list-style-type: none"> 調達資金の充当対象プロジェクトの範囲を検討 グリーンプロジェクト評価・選定プロセスの検討 見込まれる環境改善効果の算定 調達資金の管理方法・レポーティング方法の検討 ②グリーンボンドフレームワークの策定 ③外部機関による発行前レビューの取得

https://greenfinanceportal.env.go.jp/bond/structure/inssuance_flow.html

- ② 社内リソースの確認は、結局のところ次に出てくる SWOT に含まれませんか？
- ③ この分析結果がなぜ事業対象の検討につながるのか不明です。例えば、自社の強みが販売力であった場合、どのようにグリーンプロジェクトに関連付けするのですか。また、「グリーンプロジェクトとは、環境改善効果がある事業であり、環境面からのネガティブな効果（環境負荷）がその環境改善効果と比べ過大にならないと評価されるものをいう。」と地域環境保全対策費補助金交付規定に定義されており、対象範囲の検討においては、外的要因云々の前にグリーンプロジェクトに該当するか否かの評価が必要ではないでしょうか。
- ④ ここで書くべき内容は、構想策定に必要な調査・検討内容です。実施に必要な調査ではありません。

(2) プロジェクトを進める手順と留意点・工夫点

1) プロジェクトキックオフ

① 事業範囲、② スケジュール、③ 遂行組織、④ 予算を規定した事業実施計画書を策定後⑤、キックオフミーティングを開催⑥する。留意点：事業計画に(1)の構想を確実に反映する⑦。工夫点：初めて聞く関係者の理解が深まるよう平易な言葉で説明する⑧。

技術士 第二次試験 模擬答案用紙

受験番号		技術部門
問題番号		選択科目：
答案使用枚数	枚目 枚中	専門とする事項：

- ⑤ 問題には、基本構想に基づいてプロジェクトを進める手順とあります。プロジェクトを進めるうえで必要となるこれらの情報は、基本構想に定められていることが前提ではないでしょうか。この基本構想の内容が判然としない中、事業実施計画書を策定すべきか必要性を判断できません。
- ⑥ いきなりキックオフミーティングなる会議が開催されますが、誰が集まって何を目的とした会議体なのか分かりません。
- ⑦ ⑤のとおり留意点として疑義アリ。
- ⑧ ⑥のとおり、組織の構成も分からないので、工夫として妥当かどうか判断できません。

2) パイロットプロジェクトの実施および評価
 プロジェクトを最初から大規模で開始すると計画の修正が必要となった際に影響が大きいため、小規模のパイロットプロジェクトを実施し 効果を検証する ⑨。
 留意点：効果の測定基準を予め決めておく ⑩。
 工夫点：次のステップである事業拡大に向けて前広に準備する ⑪。

- ⑨ グリーンプロジェクトですから、ここをしっかりと書きましょう。
- ⑩ この問題の特徴は、計画フェーズと実行フェーズに分かれており、前者は調査検討方法を、後者は手順を記述するよう求められています。一見、フェーズごとに違うことを書くのかと考えがちですが、これはすべて構想に関する記述だと考えます。前者は構想の調査検討手法、後者は構想の内容と捉えるべきではないでしょうか。つまり、これは実行フェーズの留意点ではなく計画フェーズの留意点ではありませんか。よって、この内容が必要だと考えた場合、(1)の検討事項として記載すべきです。
- ⑪ 抽象的でどのような行動なのか分かりません。

技術士 第二次試験 模擬答案用紙

受験番号		技術部門
問題番号		選択科目：
答案使用枚数	枚目 枚中	専門とする事項：

3) 事業拡大

パイロットプロジェクト検証の結果を経営会議で報告し、承認を得た上で計画とおりに事業を拡大する^⑫。

留意点：パイロットプロジェクトの反省点を改善する。

工夫点：関係者と密に情報共有し、早期に立ち上げる^⑬。

⑫ 社内合意形成プロセスは必要ですか。論点が些末であるように感じます。

⑬ 関係者とは誰ですか。一体何を立ち上げるのですか。説明不足です。

(3) 関係者との調整方策

本プロジェクトの関係者は経営層、社内関係事業部署、プロジェクトメンバー、協力会社であり、これらの関係者と調整を行う必要がある^⑭。

1) 事業計画書の策定

事業計画書の準備段階で、社内関係事業部署、プロジェクトメンバー、協力会社と作業分担・スケジュール・資源配分等について事前にすり合わせを行い^⑮、素案を確定する。この素案を経営者に説明し、意見を反映することで経営層との調整も行う。

2) ^⑯

週に一度のプロジェクト進捗会議^⑰を行い、問題点の早期発見および解決を行う。以上

⑭ 調整の必要性を述べる必要はありません。この部分は不要。

⑮ 効率的・効果的調整方法を問われているので、このすり合わせ方法を具体的に書きましょう。

技術士 第二次試験 模擬答案用紙

受験番号	
問題番号	
答案使用枚数	枚目 枚中

技術部門
選択科目：
専門とする事項：

次の経営者の部分も同様。例えば、「事実に基づいた客観データを用いて計画の妥当性を説明する」といった具合になります。

⑩ 小見出しがありません。

⑪ なぜ週に一度なのですか？グリーンプロジェクトという事業は、一過性の短期プロジェクトではありません。このような高頻度で、効率的といえるのでしょうか。プロジェクト進捗会議も参加者が分からず、発見までならともかく解決までとなると意思決定が必要となるのではありませんか。